



2025年8月7日

各位

会社名 日本農薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 岩田 浩幸
(コード: 4997、東証プライム)
問合せ先 管理本部総務・法務部長 吉岡 正樹
(TEL. 0570-09-1177)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年5月13日に公表した2026年3月期第2四半期(中間期)および通期の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想数値の修正(2025年4月1日～2025年9月30日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	42,900	1,400	1,300	1,000	12円76銭
今回発表予想(B)	48,000	3,100	2,800	2,000	25円56銭
増減額(B-A)	5,100	1,700	1,500	1,000	
増減率(%)	11.9	121.4	115.4	100.0	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2025年3月期第 2四半期(中間 期))	39,129	1,029	519	620	7円91銭

2. 2026年3月期通期連結業績予想数値の修正(2025年4月1日～2026年3月31日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	107,500	8,000	7,200	4,800	61円24銭
今回発表予想(B)	109,000	8,500	7,300	5,000	63円89銭
増減額(B-A)	1,500	500	100	200	
増減率(%)	1.4	6.3	1.4	4.2	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	99,966	8,576	7,086	2,356	30円06銭

3. 修正の理由

(1) 2026年3月期第2四半期(中間期)

国内農薬販売において、米価高騰による生産意欲の高まりから、主力自社開発品目をはじめとした水稻向け製品の販売が好調に推移しております。海外農薬販売においては、殺ダニ剤フェンピロキシメートが、北米の一部地域で乾燥した気候が続いたことによるダニの多発生などから、果樹向けに販売が増加しました。加えて、除草剤ピラフルフェンエチルが、欧州の果樹およびばれいしょ向けならびにカナダ向けで、現地での生産都合

や米国の関税引上げの影響などにより販社への荷動きが早まったことなどから、販売が好調に推移しております。これらの要因により、売上高は当初の予想を上回る見込みであります。

利益面においても、上記売上高の増加により、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する中間純利益が当初の予想を上回る見込みであります。

(2) 2026年3月期通期

通期見通しにつきましては、新たにベトナム子会社 Nichino Vietnam.Co.,Ltd.の損益見通しを連結業績予想数値に取り込んだことに加え、海外農薬販売における前述の殺ダニ剤の販売増加などにより、売上高は当初の予想を上回る見込みであります。

利益面においても、上記売上高の増加により、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益が当初の予想を上回る見込みであります。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上